

平成29年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000101	事業の開始年月日	平成21年4月16日
		指定年月日	平成21年4月16日
法人名	社会福祉法人プレマ会		
事業所名	そよ風		
所在地	( 242-0028 ) 神奈川県大和市桜森3丁目4番4号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年10月26日	評価結果 市町村受理日	平成30年3月14日

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open">http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・そよ風はこの地域において、運営9年目を迎えております。運営初年度から参加をしておりました自治会の行事や会議へ、今年も積極的に参加をさせていただいております。その中で参加ご利用者や職員へ、地域の方々から有りがたいお言葉をいただく機会も増えており、ご近所とのお付き合いも深くなっていると確信を持っております。

・地域の商店から仕入れた食材を活かし、日々皆様に美味しく召し上がっていただけるよう、食事に工夫をしております。

・年間を通して、外食イベントやドライブイベントを企画しております。また日々の

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月30日	評価機関 評価決定日	平成30年2月19日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相模鉄道線「相模大塚駅」から徒歩2分の場所にあります。近くには神社やスーパー、ホームセンターがあり、自然に恵まれ利便性も良い立地です。建物は3階建てで、1階が保育園、2～3階が2ユニットのグループホームです。運営法人は介護サービス事業や保育園を展開しています。

<優れている点>

管理者は質の高い支援を提供するために、日々の支援の中で、説明の出来ない根拠がないことは、問題があると自覚するように職員に伝えていきます。職員は、毎日の申し送りやユニット会議の中でも積極的に自由に意見を述べ合い、管理者は職員の意見や要望に耳を傾け、チームワークの良い職場となっています。今年度、神奈川県で顕著な功績があった施設を表彰する「かながわ福祉みらい賞」を受賞しています。地域の行事へも積極的に参加しています。夏祭りでは毎年出店を任せられ、神社の祭りでは神輿の休憩場所として飲み物を提供しています。食材は近隣の店から購入し、保育園との交流、ボランティアの定期的来所もあり、地域と良好な関係を築いています。

<工夫点>

事業所への訪問診療は、全員への往診と個別対応の月2回の往診があり、個別受診は1日1人のため、医師の訪問日が1ヶ月のうち3分の2ほど多く、頻回な相談や緊急時に対応できます。また、法人内看護師や訪問看護師による健康管理を図っています。ネットによる「トークノート」を活用し、医師との報告・連携を図っているなど医療体制の充実が図られ、看取りにも繋がられています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20

ちょっとした散歩等での外気に触れる事も大切にしております。

V アウトカム項目

56 ~ 68

事業所名	そよ風
ユニット名	2階 さくら

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ユニット会議等で理念を確認し、それに基づいて作ったユニット目標があります。それに近づくため話し合いを行い、統一したケアに結びつける努力をしています。	運営法人の理念と共に事業所独自の理念を掲げ、さらに毎年各ユニット独自の目標を立てています。職員は、法人研修およびユニット会議などの場で理念に基づいた支援を再確認すると共に、日頃から理念に基づいた支援を実践するよう心がけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	天気の良い日は散歩に出掛けたり、祭り等では子供神輿を観に出掛けたりしています。	地域と良好な関係を築いています。自治会の行事へ積極的に参加し、夏祭りでは毎年出店を任せられ、神社の祭りでは神輿の休憩場所として飲み物を提供しています。食材は近隣の店から購入し、保育園との交流、ボランティアの定期的来所もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者は地域の行事に積極的に参加し、グループホームと認知症ケアの存在を開示しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	報告出来ています。地域の方からの質問や提案等、取り組めるものは実践に移しています。	会議は年6回定期的に開催し、写真などを交えての活動報告、情報交換、質疑応答を行っています。運営法人理事長、自治会長、老人会会長、行政の職員、民生委員、地区社会福祉協議会、利用者も参加し、有意義な会議となっています。	事業所入口にファイルを置き、家族にも内容を知らせていますが、委員構成に家族を含めていません。参加者も多く有意義な会議となっていますが、家族の参加も期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、認定調査等ご利用者状況を詳しく話しています。	行政へは、担当窓口へ直接出向き、挨拶のほか、種々の報告をしています。運営推進会議や大和市グループホーム連絡会の場でも情報交換をしており、良好な協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいます。 ご利用者一人ひとりの個性に合わせたケアを行っています。 また状況に合わせてユニット会議で話し合い、統一ケアを行っています。	運営法人での毎年の研修をはじめ、毎月の身体拘束委員会および虐待防止委員会、ユニット会議での利用者一人ひとりへの支援の振り返り、日々の気づきの中など、多数の場で職員の身体拘束禁止行為への理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	様々な場面で適切か不適切なケアかを話し合い、統一したケアを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が対応しており、現在では活用しているご利用者も居ないため、職員は知識不足であります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	詳しく説明を行っています。 ご家族への説明内容など、ユニット内でも共有し周知されています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者やご家族との連絡を密に行っており、その際いただいた意見等は、管理者とスタッフに伝え、運営に反映させています。	来訪時やケアプランの切り替え時、家族が参加する行事などの機会に意見や要望を聞き、対応しています。利用者からは日常の会話以外にも、誕生日に利用者インタビューと称して、出身地や好きなものの話などを聞く中で、要望があれば対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム全体会議・ユニット内での会議を行い、意見の提案を聞き反映させています。	職員は、毎日の申し送りやユニット会議の中で積極的に自由に意見を述べています。管理者は上記の機会だけでなく、職員の様子を気かけ、毎年の個人面談の機会にも職員と話し、職員のモチベーションの向上を図っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	健康診断の実施や、ユニット内の状況を確認し、環境の整備を実施しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内や外部の研修への参加を促し、研修成果等をユニットに持ち帰り、共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他グループホームと相互での勤務学習を実施しました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の資料を基に、これまでの背景や趣味・嗜好を確認してゆきます。また声掛けや傾聴の姿勢にも気を付けて対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用にどうお過ごしいただきたいかというご家族の考えを伺い、いつでもご相談いただけるようご案内をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者の希望する生活・出来る事・手伝いが必要な事を確認し、出来る限り自立支援をさせていただいております。また必要に応じ訪問マッサージ等の提案を実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者同士の相性を考慮した席配置や、トラブルが予見される時には職員が間に入る等の対応をしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に生活のご様子を手紙にて報告しています。またイベント等にもご参加いただけるようご案内をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人等の来所時に、また来ていただけるように努めています。	家族や親戚はもちろん、利用者の近所に住んでいた人や趣味の仲間の来訪やハガキでのやりとり、また、テレビで利用者の出身地が映る際に話題を持ちかけるなど、馴染みの人や場所への関係性を考慮しながら、関係継続の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事の時など、お互い気が合う方同士で一緒にテーブルに座っていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族から連絡があれば、支援していきたいと思っています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の望む生活をしていただくため、ご本人にどうするかを尋ね、希望に添える支援をしています。	利用者の思いや意向は、普段の会話や表情と、家族の話などから把握しています。職員は、利用者が一日一日を楽しく過ごし、笑顔が見られたら、との気持ちで日々支援をしています。今年度は「暮らし」をテーマにし、支援の在り方の再検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にどんな生活をしていたのかを聞くなどして、なるべくご本人に合った生活をサービスしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日穏やかに過ごしていただけるよう支援をしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフ皆で話し合う等して、その方に合った介護を計画しています。	毎月のユニット会議で、利用者の状態を話し合い、家族からの要望も取り入れ、必要に応じてケアプランの見直しおよび作成をしています。医療面では「トークノート」を活用して情報の共有を図り、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	パソコン入力の他に、ユニット独自の共有表に記入して職員で情報を確認し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族も一緒に参加できるイベントや、誕生日会などのサービスを支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	歩ける方は自由に歩いていただき、歩く事が困難な方は手引きの介助にて案善意誘導をしています。 様々なイベントを企画し、皆様に楽しんでいただける支援をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	出来る限り、ご家族も納得出来る支援をしています。	家族の同意を得て、事業所の訪問医をかかりつけ医としています。全員への往診、更に個別対応の計月2回の往診があり、医師の訪問日が1ヶ月のうち3分2ほどと多く、頻回な相談や緊急時に対応できる24時間対応の体制を整備しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調や表情の変化、普段と異なる変化を見逃さないように心掛けています。変調発見の記録、食事量等を確認し、気付いたことがあれば他職員やリーダーに報告相談の上、医療に繋がっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の支援方法等の情報を医療機関と共有と提供をし、ご家族とも回復状況などの情報交換をしています。速やかな退院支援と入院によるダメージを極力防ぐ努力をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族の意向を踏まえ、医師と職員が連携を取り、ご本人が安心して穏やかな最期を迎えられるようにします。また定期的に意思や意向を確認しながら取り組んでおります。	入居時に看取りの指針を説明し、必要になった段階で早めに医師・家族・職員など関係者で話し合い、家族の意向を確認しながら支援に取り組んでいます。運営法人のターミナル委員会に参加し、揺れ動く家族の気持ちに寄り添い臨機応変に対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員が緊急時対応を出来るよう、マニュアルを整備し、周知徹底を行っております。職員間での対応方法についての確認を常に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防の協力を経て、避難訓練を実施。避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練をご利用者と定期的に行っています。	年2回、夜間も想定し消防訓練（初期消火・通報・避難誘導・緊急連絡など）を実施しています。運営推進会議で実施内容を報告し、新人に災害の研修をしています。毎月「自主検査チェック表（火気関係）」「消防用設備等自主点検チェック表」を実施しています。	地域と良好な関係を築いていますので、協力を得られる体制ですが、更に踏み込んで、近隣住民へ声をかけ、協力・理解を依頼することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	馴れ合いの中で、ご本人の尊厳を無視したような対応になる事があるため、一呼吸置いて自己決定しやすい言葉掛けをするように努めています。	日常生活の支援で、説得でなく一人ひとりの都合・立場を理解し、利用者が納得できるような対応や、自ら選択できるような言葉かけなど、人格の尊重に努めています。入浴や排泄時はタオルをかけ、扉の外で待つなど安全を確保しプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個人の状態に合わせ、ご本人が答え易いような声掛けをし、自分で決められるようにしている。意思疎通が困難な方には、明確に伝わるよう声掛けし、表情を見て判断するよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入浴やイベント等、職員側で決めている事も少なくないが、個人の生活ペースを大切にしています。その日の体調や様子、ご本人の気持ちを尊重し、出来る限り個人に合う対応支援を行うようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人の拘りを把握し、個人の生活習慣や体調等に合わせた支援を行っています。イベント等の際には、普段とは異なる装いを楽しんでいただけるようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者と職員が、一緒に食事や一連の作業を行う事は、現時点ではきわめて困難な状況のため職員が行っています。その中でも旬の食材を取り入れ、個々の好みを踏まえて美味しく召し上がっていただける工夫をしています。	地域の新鮮で旬の食材を調達し、利用者の要望を踏まえて法人管理栄養士の下、バランス良い食事を提供しています。誕生日食、行事食、外食や出前を楽しみ、食形態に応じ、美味しく食べられる工夫をしています。野菜を包んだり名札付けを職員と一緒にしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合わせた支援が出来ていると思います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員の方が同じではなく、お一人で出来る方、支援が必要な方、それぞれ職員は見極めて実施出来ていると思います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々のパターンを把握し出来ていると思います。	排泄委員会ではおむつの使用量の軽減や布パンツの使用を進めるため、尿量計測、誘導方法などを個別に取り組んだり、適切な排泄介助の研修をしています。排泄パターンを把握し、早めのトイレ誘導で失禁予防や自立排泄への支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	フロア内は、なるべく歩いていただける様に、工夫していると思います。 (足運びがスムーズに行えるよう、歌を唄いながら歩く)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	穏やかに入浴していただく為に、タイミングに合わせて支援させていただいています。	入浴は午前週2回ですが、失禁時のシャワー浴や、入浴拒否の人への声掛けの工夫や時間・曜日の変更をし、穏やかな入浴と清潔保持に努めています。シャワー浴時は足浴と肩にタオルをかけ保温に配慮し、入浴剤や湯加減を調整するなど、入浴支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	出来ていると思います。 眠そうにされている時は、ベッドに寝ていただいたり、ソファで休んでいただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルにはさんでおり、いつでも見られる状態にあります。 薬の変更などがあった場合は、変化があるか無いかを確認し、訪問医に報告しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	出来ていると思います。 洗濯物たたみ等の役割があります。 また行事も多く企画しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	晴天の時は近くまで散歩をされたり、行事として公園散策をされています。	利用者の介護度の重度化により、外出が難しくなっている中、気候が良い時期には出来るだけ戸外の風景に触れるように支援しています。季節の花見、散歩、スーパーやホームセンターでの買い物、ペット見物を楽しんだり、夏祭りやイベントなどに出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日用品が不足した時など、その方と一緒に買い物に出掛ける事もしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族への電話は、ご本人が遠慮をせずに職員に頼みやすい様、声掛けを行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者にとって住みやすい環境づくりを心掛け、季節を感じていただける様、飾り付けを工夫しています。	食堂兼居間は広く明るく清掃が行き届いています。テーブル、テレビ、ソファを配置し、利用者は好きな場所で過ごしています。オープンキッチンではカウンター越しに利用者や調理中の職員が会話をしています。壁には利用者の個人作品や季節の共同作品を飾っています。食事席は人間関係に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを配置し、居心地の良い環境作りを行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者が生活しやすい様、家具の配置やご家族の写真等の備品を設置しています。それにより安心して過ごしていただけるよう工夫をしています。	使い慣れた家具やタンス、テレビを置いたり、家族や孫の写真、作品を飾るなど、それぞれの過ごしやすい環境づくりを支援しています。加湿器を設置する、家具を手の届く位置に配置する、室温調節をするなど、室内の安全と居心地よい環境に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者の身体機能に合わせ、ベッドやその他家具の配置を行い、居室内のトイレも手摺りを増やす等工夫をしています。		

事業所名	そよ風
ユニット名	3階 けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	そよ風の理念をユニット会議などで確認し、普段のケアにおいても意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われる季節の行事への参加、保育園児との交流などを定期的に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に向けた支援の方法は検討中です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一度開催し、意見交換を行っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の場でお伝えしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束になってしまっていないかどうかと日常的に意識をし、チーム全員で共有しながらケアと支援を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内や外部での研修を通じて学ぶ機会を持っています。 また一つひとつのケアについて、ユニット内で点検を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要がある方には情報提供をし、また利用している方については支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が適切に行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族訪問の際にはこまめに対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議や日々の相談から、意見や提案について充分話し合いができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場環境・条件の整備に努めていると思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の受講等の機会を持っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の他法人との勉強会を行っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居の際に以前の生活状況を把握し、その方の心身状態やご本人の好み、やりたいことへの協力等を確認します。職員がご利用者に受け入れていただけるような関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの苦労やサービスの状況等、ご家族にお会いした時に伺っています。 出来る限り希望に添えるようにユニット内でも話し合っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	以前はこうだったが、これからはこうして欲しい等、出来るサービスであれば直ぐ実行し始めます。 難しい事であれば、ユニット内でどうしたら良いか具体的にご本人とご家族に相談しながら進めてゆきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者とは喜怒哀楽を共に分かち合い、ご本人の人生の中でのお話等を伺います。 その中で共感したり教わったりする事が多くあり、自己の成長にも繋がっています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	生活する上で、ご家族の名前などを出しながら記憶を保持出来る様に工夫をしています。またご家族にも覚えていてる事を教えてもらい、ご本人との橋渡し出来る様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人の馴染みの場所へ行く事がなかなか出来ない場合でも、テレビで出身地等が出ている時は、一緒に見ながらお話を伺っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者とお話する時は、周りに居る方にも相槌を打てるような話し方を心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設等へ行かれた方のご家族にお会いしても、気軽に挨拶をしたり、情報交換をする事が出来ています。またお互いに笑顔での対応が継続しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	特に食べ物や飲み物には気を配っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族にお話を伺い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	バイタル・排泄状況の把握を含め、心身状態の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	変化のあった場合、スタッフ全員で話し合って作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	良いチームワークで活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	チームワークで取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関との関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	常に勉強し、努力しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害の対策はしているが、実際に起こってみなくては分からない事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格や考え方に合わせた支援を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉だけでなく、行動や表情からも判断出来るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい暮らしを考えてはいるが、業務中心になってしまう事が多々あります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔な身だしなみは心掛けているが、日々の服装の決定は職員のみで行ってしまっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みや体調に合わせて食事を行っています。 またイベントで豪華な食事を提供する事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	季節や体調を考えながら支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	それぞれのADLに合った方法で、毎食後実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	それぞれに合わせた定時誘導を行っています。 また時間帯や排尿量に合わせた排泄用品を使用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	ユニットで実践し、効果のあったオリゴ糖入りヨーグルトを摂っていただいています。 まずは予防に努力をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員がスケジュールを決めて、入浴を行っています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動をしていただき、生活リズムを整える中で、午睡の必要な方には休息をしていただくよう支援しています。 夜間、睡眠障害が見られた時には、最適な体位をとる工夫をし、解消するようチームで支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい薬について、往診がある度に医療情報に詳細を記載しています。 症状の変化を確認するためにも、その日の情報を明確に記入するように努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	縫い物が得意だった方に刺し子もしていただいております。またフロアの壁面作りで季節感を味わっていただけるよう協力をしていただいております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出し、スーパーのフードコートでアイスクリームを食べたり、季節に合わせた味わいを楽しんでいただける支援をしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物ツアー企画を立て、スーパーでお金を使用し買い物が出来る喜びを支援しています。 ご自分の所持金を使用する満足感も、ご家族と相談しながら実施しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と連絡が取りたいというご要望があれば、施設の電話を使用し会話をしていただく事が出来ます。施設の電話を使用しても良い事をお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や生活フロア等にその都度季節の花を飾っています。ご利用者が花瓶にいれて、季節感を身近に感じられる工夫をチームで行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	皆と同じテーブルを囲んでテレビ鑑賞を楽しまれている方、キッチンカウンターで飲食し、職員と気楽に会話を楽しまれている方等居ます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にご家族の写真や、誕生日カードを飾ってお祝いや離れて過ごされているご家族の思いを大切にさせていただきます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	排泄・入浴等の介助において、二人介助が必要な場合でも、ご本人が落ち着いた気持ちで居られるように、職員はどちらか一名の声掛けを実施しています。		

平成29年度

## 目標達成計画

事業所名 社会福祉法人プレマ会 そよ風

作成日： 平成 30年 3月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	ご利用者のそよ風利用年数と職員勤続年数の経過による馴れ合い。 そよ風ご利用者全体が重度化してきている中で、ご利用者の意思に基づいてのケアではなく、職員都合の段取りによるケアが見られるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体状況が重度化していく中でも、そよ風において「暮らしの継続」が出来るための介護のあり方を見直してゆく。</li> <li>今のケアが果たして正しいのかと一呼吸おける姿勢作り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各ご利用者の状況とお気持ちの再確認。</li> <li>毎月変化する様子を、ユニット会議で報告し合い、メンバー全員で共有してゆく。</li> <li>ご家族の望む「暮らし」を再確認。</li> <li>個別ケアとユニット業務の整理。</li> <li>適切な（定期的な）人事異動。</li> </ul>	12ヶ月
2	33	29年度看取りケア2例あり。 どちらにおいてもユニット職員により、取組みの度合いに温度差が生じていた。 グループホーム等の生活の場と、病院等の治療の場との違いが、訪問診療があるそよ風では分かりづらくなってしまっているのではと思う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>そよ風での生活が、そのご利用者とご家族にとって、より意義があり充実した時間になるよう看取りケアの考えを再構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>そよ風で可能な看取りケアを全員で整理。</li> <li>ご家族との意見交換をその都度実施する。</li> <li>医療機関を交えたカンファレンスの実施。カンファレンス後に、職員勉強会開催。</li> <li>法人内ターミナル委員会出席職員からの勉強会の開催。</li> </ul>	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月